明日を拓く

「草の城」は地域の生命線、水の源

ここは、わさびも取れる清らかな水の郷です。

宇山地区が取り組む6次産業とは

森と水企画「草の城」の森山敏さんに、事業の概要について伺いました。

ほし芋を乾燥作業中

森山 敏 さん

問 今までの事業は

答 最初に町の提案型事業を活用し、竹林整備を目的に、たけのこを採って、乾燥たけのこを商品化した。今では販売量は一定だが、固定客がある。

次は県のトライ事業を活用してサツマイモをはじめた。松江市で行われたトライ事業のイベントで、他地域のサツマイモと味比べをしたが、断トツで宇山のサツマイモがうまかった。土作りに廃菌床とカブトムシ堆肥と秘密のエッセンスを使った成果だった。

冷やし焼き芋は、売れ残った焼き芋を冷凍庫に保存し、後で食べてみたら焼きたてよりさらにうまかったことで商品化した。偶然の産物だ。

問 今から取り組むことは

答 この地域にあるものを加工して商品化したい。今持っている販路に地域の珍しいものを供給していきたい。

問 6次産業化を行う上でポイントになる部分は

答 色々な人と付き合うこと、人脈が様々な販路につながっていく。ここの品物がいいものと思ってくれる人が、知り合いに話して、口コミで販路が広がっていく。

問 今後の目標は

答 事業を始めた頃のメンバーは次第に歳をとってやめていく。ここにそんなに若い人がいるわけではないので、囲い込みなんかせずに、地域外へ労働力を求めている。

近所に障がい者支援施設があるが、ここからも働きに来てもらっている。

事業が次第に大きくなれば、地域外や施設の人たちの働きの場にしていきたい。この町に何か波及効果があればこの上ないことだ。

問 行政に求めることは

答 施設を作ったり、設備を整備するには多額の資本が必要になる。集落の人だけでは無理がある。スタートの場面で行政の支援は必要だ。

がんばって自力でやっていこうとする人たちが、地面をけって飛び立っていくために支援してほしい。

表紙の写真

高原の町にスキーの季節がやってきました。冬休み最後の日なのか、町内の生徒・児童の姿が、町外来場者の中に混じり多く見受けられました。子どもの頃から整備された良質のスキー場に馴染み、様々なスキー大会や競技会に出場する機会も多いということは、結果として優れた冬季スポーツの選手を輩出する源泉にもなります。「小さいときから地元の琴引スキー場で滑ってましたから。」と言ってくれるようなオリンピック選手が育ってくれるといいなと思いつつ、寒いスキー場で微笑みながらシャッターを押しました。

編集後記

昨年の12月議会は、何かと落ち着かない議会であった。中間日の16日は、第46回衆議院総選挙があり、再度3年3カ月ぶりに自公政権が誕生した。

特に経済対策、社会保障、外交、安全保障、憲法問題と、難問が山積している。

その中において、最も配慮しなくてはいけないことは、政治への信頼回復である。民主党のマニフェスト（政権公約）は、国民に決定的な嘘をついた形になった。「決められない政治」だったのだ。

しかし、政権政党は、今後、国民から強く支持される政策をしなくてはならないのである。

このような国政の動きを本町議会も真摯に受けとめ、我々議員はさらに町民の皆さんに支持されるよう努力しなくてはいけないことを感じたところである。

今年は、議員一人一人がさらに自らをいましめる思いで議会活動に当たらなくてはならない。

議会広報編集委員会
瀧尻 行雄